

種目名	算数	選定替えの有無	有・無	選定発行者名		従来の発行者名	啓林館
-----	----	---------	-----	--------	--	---------	-----

発行者 観 点		東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	啓林館	日本文教
1 学習指導要領との関連		・各単元で働かせた数学的な見方・考え方に価値付けをし、さらにはそれを生かすことでどんどん学び続けたいくなる編集になっている。	・友達の考えを聞いた、話し合ったりする活動を適切に取り入れ、数学的な思考力・判断力・表現力が身に付くように編集されている。	・単元で身に付けさせたい力を明確にし、その力を新たな学びに生かすことで、基礎的・基本的な知識・技能が定着するよう編集されている。	・児童自身の言葉で自分の考えを示すような、話し合い活動を取り入れることで、数学的な思考力・判断力・表現力が身に付くように編集されている。	・児童が問題意識をもって主体的に算数に取り組めるように、日常生活から問題を見いだすなどの数学的活動が積極的に取り入れられている。	・見通しをもち筋道を立てて考え、話し合う活動を適切に取り入れ、数学的な思考力・判断力・表現力が身に付くように編集されている。
2 「あいちの教育の基本理念」との関連		・日常の事象や児童の生活場面での課題設定がなされ、学習した内容が社会生活で生かされる工夫がなされている。	・日常生活における算数に関する題材が多く取り上げられ、算数で学んだことを家庭や地域での生活に活用できるよう工夫されている。	・協働的な活動を通して解決する問題や発展問題などを豊富に取り入れ、自らを高めることができるよう工夫されている。	・身の回りの事象を数学的視点から取り上げることで、算数の有用性を感じ、社会で生かすことができるよう工夫されている。	・日常の事象や既習事項とのつながりから単元を導入し、児童の興味・関心を喚起し、主体的に学習するよう工夫されている。	・身近な話題を取り上げた課題を多く示し、身に付けた内容を実生活や社会で生かせるように工夫されている。
3 内 容	(1) 内容の選択	・算数のよさや楽しさを実感しながら問題に取り組めるように、生活に関連した内容が選択されている。 ・既習内容の振り返りをもとに学習課題を整理することで、学習の焦点化が図られるよう配慮されている。	・児童の日常生活と関連した問題や素材が選択されており、新しい課題を見だし、主体的に学習に取り組む態度を養ったり、学習の焦点化が図られるよう配慮されている。	・学習の見通しをもたせたり、既習事項を振り返らせたりすることで、学習の焦点化が図られるよう配慮されている。 ・単元末の練習問題により、基礎的な内容が理解できているか確認できるよう配慮されている。	・単元ごとに、活用問題「学んだことを使おう」を位置付けてある。学習したことをすぐに実生活等に活用することで、算数を学ぶよさを実感できるように構成されている。	・生活体験を重視し、身近な素材で解決の必要感がもてる内容が選択されている。 ・課題解決に必要な考え方を複数示し、考え方を選択できるように構成されている。	・単元導入時に興味や好奇心に触れ、その後の学習の見通しをもつことで、学習内容の焦点化が図られるよう配慮されている。 ・学習した内容ごとに練習問題を繰り返し行うことができる。

	(2) 内 容 の程度	東京書籍 ・巻末の補充問題に2段階の問題を用意し、個々の習熟度に応じて、基礎的な技能が確実に習得できるよう工夫がされている。 ・児童の発達段階に応じた図やイラストを使用することで、スムーズに学習が進められるようになっている。	大日本図書 ・適用問題を増やしたり補充問題を用意したりして、知識・技能を確実に身に付けるよう工夫されている。 ・多様な解決方法と図や式などを結び付けながら説明する活動等が適切に位置付けられている。	学校図書 ・単元末や巻末には、「できるようになったこと」「まなびをいかそう」「深めよう」の3段階の問題を用意し、基礎的な技能の確実な習得と発展的な学習を児童が選択して進められるよう工夫されている。	教育出版 ・単元末に補充・発展の練習問題が用意され、個々の習熟の程度に応じた繰り返し学習ができるように配慮されている。 ・線分図や数直線を使って、式の根拠を考えたり計算のしかたを説明したりする活動を重視している。	啓林館 ・発達段階に応じた図やイラストを使用し、身に付けなければならない内容が理解できるようになっている。 ・「じゅんぴ」「もっと練習」等、一人一人の学びの段階に応じた問題を選択して学習できるよう配慮されている。	日本文教 ・つまずきやすい内容は、多く見られる誤答例を取り上げ、同じ間違いを繰り返さないよう工夫されている。 ・繰り返し練習する問題や発展問題、生活とのつながりのある話題を示し、習熟に応じて学習できるよう配慮されている。
	(3) 内 容 の構成	・各単元は、前後の学年の内容を視野に入れ、相互の関連や領域のバランスを考え、適切に配分されている。	・全学年を年間各1冊の合本とし、学年内の振り返りが容易になり、1年間の見通しも容易である。	・つまずきやすい単元については2つに分割し、学び直しのできる配列にしてある。	・各領域の内容は、学年間や他教科とのつながり、中学校との接続に配慮し、学びを系統的につなげるよう組織されている。	・学年間のつながりや他教科との関連、多様なカリキュラムに配慮し、学習内容が系統的に組織されている。	・習熟に時間を要する内容については、領域の早い段階に配置し、何度も学習できるようにし、学年内で定着できるよう配慮されている。
4 表記・表現及び使用上の便宜等		・書体や色を使い分けたり、文字の大きさを変えたりするなど、児童が理解しやすいよう、視認性を考え記述している。	・学習場面を分かりやすく説明するためのイラストや、必要に応じて実物の写真が提示される等、効果的に活用されている。	・イラストや写真などは見やすく、見方や考え方を分かりやすくするために、キャラクターや吹き出し、側注が効果的に活用されている。	・単元のまとめでは、学んだことのよさや考え方を振り返る4コマ漫画を設けている。 ・吹き出しで、「学習のねらい」と「考え方のまとめ」が示されている。	・日常の様子を表すイラストや写真などが適切に活用されている。 ・文章を意味の区切りで改行して、読みやすさに配慮したり、分かりやすい表現にしたりして、理解しやすく記述されている。	・イラストや写真などは見やすく、活動内容を分かりやすくするために、図・吹き出しなどが効果的かつ適切に活用されている。
5 印刷・造本等		・視認性を高めた教科書体を使用し、淡い色を用いた落ち着いた色使いで、読みやすく学習に集中できるように配慮されている。	・課題の背景に色網を施し、ユニバーサルデザインフォントを使用している。	・中1ギャップや学力向上といった諸課題への対応として、「中学校へのかけ橋」が別冊となっている。	・写真やイラストを多く取り入れ、作業的な手順を写真で分かりやすく説明するなど、視覚的に捉えやすくなるよう配慮されている。	・図や表は大きさや配置を工夫したり、学年ごとに問題番号の色を統一したりするなど適切に配慮されている。	・色だけに頼ることがないように、文字情報を添え、線の形を変えるなど、全員に紙面の情報が伝わるように配慮されている。

